

### 鉄道総研の

# 技 術

# 遺 産

File No. 13

## 「一花開天下春」の額

### ■ 十河信二と国立研究所

国立研究所の理事長室には、「一花開天下春・信二題」と書かれた縦0.7m×横2.3mの大きな扁額が掲げられています。これは第4代国鉄総裁の十河信二（1884～1981）の揮毫によるものです。前回でも紹介しましたが、鉄道総合技術研究所の前身となった日本国有鉄道技術研究所の国立への移転は、1955（昭和30）年に国鉄総裁に就任した十河信二の下で計画が進められました。

十河総裁は、1958（昭和33）年10月の国立集中工事起工式で鋤入れを行い、完成に先だって1961（昭和36）年6月には記念植樹に訪れました。また、総裁辞任直後の1963（昭和38）年10月には、研究所の本館ロビーに十河信二を顕彰した胸像レリーフ（彫刻家・宮本光庸作）が完成し、除幕式に訪れましたが、その際に講堂に全職員が集まって「送る会」が開催され、十河前総裁は1時間20分にわたって職員を激励した後、名残り惜しそうに退所したと伝えられます。



①理事長室に掲げられる「一花開天下春」の扁額



②国立研究所の鋤入れを行う十河総裁  
1958（昭和33）年10月16日

### ■ 「一花開天下春」の由来と意味

「一花開天下春」は「いっかひらいて、てんかはるなり」と読み下し、中国の宋代の禅僧・宏智正覚（1091～1157）の禅語を引用したものです。曹洞宗宏智派の祖である宏智正覚の教えは、留学僧の道元（1200～1253）によって日本へもたらされますが、この際に持ち帰ったとの伝承がある『宋版宏智録』（大分県国東市泉福寺蔵：国指定重要文化財）全6冊のうち、第1冊の「江州能仁禅寺語録」の冒頭に「上堂云。一塵起大地収。一花開天下春。」（上堂して云う。一塵が起きて大地が収まり、一花開いて天下春なり。）と記されました。『宏智録』は、1702（宝永5）年に再編集されて『宏智禅師広録』全9巻となり、これが広く流布されますが、その第1巻にも収録されています。

文意は、「一輪の花が開いて、天下の春の訪れを知る。」という意味で、十河総裁はこの言葉を座右の銘としていました。鉄道総研の非常勤理事を務めていた村野賢哉（当時、NHK解説委員）の回想によれば、1963（昭和38）年1月に十河総裁が新潟の雪害（いわゆる「サンパチ豪雪」）を視察、慰問した帰途の車中で、「国鉄の3本の柱は、技術研究所と鉄道学園と総合病院である。」と語り始め、「技術研究には特別に力を入れている。」と力説した上で建設中の東海道新幹線に言及し、「斜陽化をいわれる鉄道に、ふたたび春をもたらず。」と語りました。新幹線や研究所を花に例えて、これによって天下の春が開かれることを言祝いだこの言葉の真意を知り、感銘を受けたとされます。



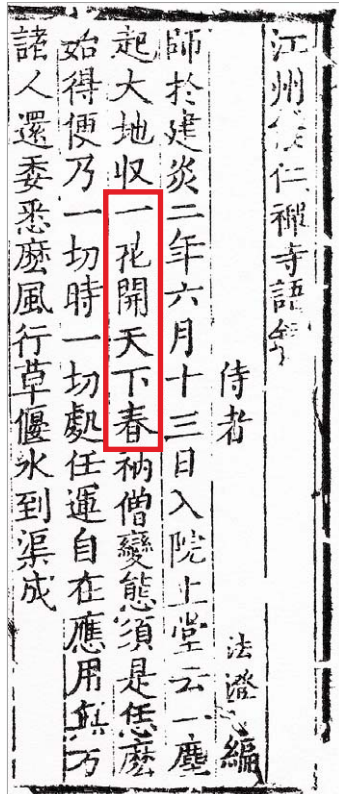
③天童宏智老人像碑拓本  
(中国浙江省寧波市天童寺)



⑤東京駅18/19番線プラットフォームにある新幹線開業碑



⑥新幹線開業碑の碑面と「一花開天下春」



④「宋版・宏智録」の  
「一花開天下春」  
(泉福寺蔵)

## ■ 浜松町から国立へ

十河総裁がこの書を揮毫したのは、1959(昭和34)年1月の書き初めとされ、鉄道技術研究所の国立移転にあたって贈られました。十河総裁は、1959(昭和34)年4月1日に、浜松町にあった鉄道技術研究所を訪れ、研究所の52周年を記念して職員の前で

訓示し、同年10月の国立移転を前提としつつ「ここ(浜松町)で諸君にお目にかかれるのはこれで最後であります。こんなオンボロな研究所でよくも諸君が我慢して研究を続けてくれたものだ、私は今さらながら感激に耐えないところであります。」とあいさつしました。当時の記録では、この際に扁額が所長室に掲げられたとされるので、浜松町時代にすでに用意され、同年10月の国立移転(開所式は10月16日に十河信二総裁、島秀雄技師長、大石重成常務理事を迎えて挙行)にともなって、国立の新しい所長室へ移されたと考えられます。

この「一花開天下春」の揮毫を用いた新幹線開業記念碑は、東京駅の東海道新幹線プラットフォーム(18/19番線)の新大阪方にあり、1972(昭和47)年

10月14日の鉄道百年を記念して日本国有鉄道により建立され、今も行き交う列車を見守り続けています。

鉄道総合技術研究所の所蔵する十河信二の揮毫による扁額には、このほかにも役員室に「明白四達」(老子)がありますが、これはかつて図書室の閲覧室に掲げられていたと伝えられます。

(小野田滋/情報管理部 担当部長)

## 文献

- 1) 総裁あいさつ、鉄道技術研究資料、Vol.16, No.4, 1959
- 2) 村野賢哉：一花開天下春、国有鉄道、Vol.21, No.8, 1963
- 3) 石井修道：宏智広録考、駒澤大學佛教學部研究紀要No.30, 1972
- 4) 名著普及会：禅籍善本古注集成・宏智録(上)、1984
- 5) 石井修道：宋代禅宗史の研究、大東出版社、1987